

宮城県(南三陸町・登米市)オールロケ

太宰治生誕一〇〇年記念映画

# パンドラの匣 はこ



染谷 将太  
川上 未映子  
仲里 依紗  
窪塚 洋介

ふかわりよう  
小田 豊  
杉山 彦々  
K I K I (友情出演)  
洞口 依子  
ミッキー・カーチス

【監督・脚本・編集】富永昌敬

（亀虫「バリオン山椒魚」シヤリーの好色人生と転落人生）

【原作】太宰 治『パンドラの匣』（新潮文庫刊）

【音楽】菊地成孔

【撮影】小林基己

【照明】藤井貴浩

【美術】仲前智治

【製作】東京テアトル

ジエオン・ユニバーサル・エンターテイメント

シネグリーオ、パレード、GIP

河北新報社、仙台放送

【配給】東京テアトル

【宣伝】ミラクルヴォイス

【制作協力】パレード

【制作プロダクション】ユースペース

【協力】Date fm

せんだいタウン情報Style

2009 / 日本 / 35mm / カラー / アメリカン・ウイスタ  
DTSステレオ / 94分

©2009「パンドラの匣」製作委員会

[pandorahako.com](http://pandorahako.com)



# 太宰のサニーサイドが、生誕100年、宮城県を舞台に青春映画として甦る。

終戦直後。青年は、恋と友情と未来に悶々としながら、「新しい男」をめざす。

2009年、太宰治(1909～1948)は生誕100年。とはいえ、今なお新しい読者を獲得し続けている「現役」の小説家である。今年から来年にかけて、太宰を原作とした映画が立て続けに公開されるもの、若き天才監督、富永昌敬(パピリオン山椒魚)が選んだ「パンドラの匣(46)」は、ズバ抜けて異質だ。

日本が太平洋戦争に負けた年。結核療養のため山里の健康道場に入った青年、ひばりは、年齢や境遇も異なるキャラの立った仲間たちに囲まれ、「新しい男」になることを目指す。竹さんとマア坊―生命力に溢れた二人の看護婦さんへの甘酸っぱい気持ちや、結核による突然の仲間の死など、日々の心の揺れを、親友宛ての手紙にこまめに書き続ける。しかし、ひばりの、「この世に不幸をまき散らしたパンドラの匣の隅に、「希望」の文字が書かれていた小さな石を見つけた」というギリシア神話に通ずるポジティブな世界観は変らない。

そう。「パンドラの匣」は、太宰のサニーサイドなのだ。



昭和20年当初、太宰初の新聞小説として河北新報に連載されていたパンドラの匣は、記念すべき今年の映画化を目標とし、2008年11月、宮城県において撮影された。映画化が企画される以前から宮城県との交流があった富永監督が、連載当初のような建物や風景をロケ地として探していたところ、偶然、南三陸町、登米市にて理想的なロケ地に出会い、宮城県でのオールロケに決定。

この度の太宰生誕100年がもたらした、宮城県と今作の運命的且つ素晴らしい出会いによって生まれたこの作品に、多くの宮城県の皆様に触れていただきたい。

「揺れ動く若者の恋心」そして「生への希望」、太宰の文芸作品がその魅力を増して映画に生まれかわりました。

「パンドラの匣」を開けてしまったような現代社会に住む私たちに、箱の隅っこに見つけた「希望」という石を信じて、精一杯生きろと応援のメッセージを送ってくれているようにも思えます。

南三陸町での撮影では、町民エキストラ80人の協力、飲食店組合の多彩なロケ弁提供など、裏舞台も面白いエピソードがたくさんありました。

映画の中に一度だけ、南三陸の海が登場します。美しい志津川湾を背景に主人公「ひばり」と「マア坊」の印象的なラストシーンです。とても素敵な映画ですので多くの皆様にご覧いただきたいと思えます。

南三陸町長 佐藤 仁

先日、公開に先駆けて「パンドラの匣」を観る機会をいただきました。明日への希望と生命力に満ち溢れた本作品は、太宰治生誕100年を記念するにふさわしく、富永昌敬監督がつくりだす独特の世界観に魅了されました。

登米市の春蘭亭も撮影場所に使用されており、これを機会に昔懐かしい町並みが残る「みやぎの明治村(登米)」に足を運びたいだけ幸いです。

監督をはじめ関係者皆さまの情熱により、素晴らしい作品が出来上がりましたことお喜び申し上げ、多くの皆さまに是非ご覧いただきますようご推薦を申し上げます。

登米市長 布施 孝尚

## 太宰治生誕100年記念映画「パンドラの匣」

【宮城県上映を成功させる会】

- 宮城県 知事 村井 嘉浩
- 南三陸町長 佐藤 仁
- 登米市長 布施 孝尚

- (財)仙台市民文化事業団理事長 佐藤 信夫
- (財)仙台観光コンベンション協会理事長 丸森 仲吾

- (財)結核予防会宮城県支部 支部長 田中 元直
- 河北新報社代表取締役社長 一力 雅彦

- 仙台放送代表取締役社長 竹内 次也
- NPO法人キューオーエル理事長 横山 英子

- ジー・アイ・ピー代表取締役社長 佐藤 寿彦

### 太宰治生誕100年記念映画「パンドラの匣」登米市上映会

上映時間 94分

先行上映会【申込先着順30名】

10月7日(水) ①14:00 みやぎの明治村「教育資料館」

10月27日(火) ①14:00 ②18:30 登米祝祭劇場

#### 登米市の春蘭亭で映画撮影

映画「パンドラの匣」は、宮城県がオールロケ地となっており、登米市の春蘭亭でも撮影が行われました。登米市民の皆さんお誘い合わせの上、一緒に映画を見て太宰治の素晴らしい物語に触れてみましょう!

前売券 (県内共通鑑賞券)

〈前売券〉1,000円  
 〈当日券〉大人・学生 1,500円／高校生 1,200円  
 中学・シニア 1,000円／小人 800円  
(60歳以上)

宮城県上映の入場券一枚につき30円を結核予防会宮城県支部へ寄付致します。

主催/映画「パンドラの匣」登米市上映実行委員会  
 [構成団体] 登米市、登米市教育委員会、登米市観光物産協会、(株)よま振興公社、登米市文化協会、登米中央商工会、みやぎ北上商工会、登米みなみ商工会、登米市社会福祉協議会、登米市民生委員児童委員協議会、登米市保健活動推進員、登米市食生活改善推進員協議会、登米市老人クラブ連合会、登米市地域婦人団体連絡協議会、登米市青年団連絡協議会、登米市PTA連合会、(財)登米文化振興財団  
 お問い合わせ/☎0220-34-2734

プレイガイド  
 登米市商工観光課(☎0220-34-2734)  
 登米祝祭劇場(☎0220-22-0111)  
 遠山之里(☎0220-52-5566)  
 市内プレイガイド  
 登米市各総合支所